

# 年間を通じて豊富に生産できる 畑地の自給飼料栽培

## 一 輪作内の採草地

優良牧草地は家畜と畑の健康の基となります

○「府県の牛は短命」という言葉は、府県は北海道に比し牧草の与え方が少ないことを端的に表現しています。牧草は蛋白、澱粉、ビタミン、無機質など家畜に必要な成分を含有し、乳牛その他の家畜の健康の源泉です。

○菜種—大豆—麦類といった単純な作付けの繰返しは、土壌を極端に老朽化させています。この老化した土壌を若返らせるのはイネ科牧草の豊富な根群とマメ科牧草の根瘤菌で、土壌構造を団粒化し、土地を肥沃にすることができます。

### 優良採草地の造り方

(1) 酸性土壌には石灰を入れる

牧草は一般に酸性を嫌うから、石灰で中和することが大切です。石灰はまた、牧草の生育に必要なばかりでなく、牧草を通して、乳牛等家畜の健康が保たれ、その上酸性土壌に出やすい雑草の生育をおさえてくれます。

(2) 細かく碎土す

牧草の種子は非常に微細なものです。碎土は丁寧にしましょう。碎土がわるいと発芽がそろいません。

(3) 基肥には永持ちする肥料を

稚苗時に必要な速効性肥料の他に、堆厩肥、燐、骨粉あるいは山野草をすき込めば、長期間有効です。また生産力を維持するためには追肥を忘れてはなりません。牛尿や化学肥料、特に燐酸、加里の補給を考えましょう。

(4) 適牧草を少くとも四種類混播

その土地の気候、土壌、利用の各条件に合う牧草を選び、マメ科イネ科夫々二種類ずつ、少くとも四種類の混播が必要です。

(5) 均一にまき、覆土はうすく

土に適当な湿りのある時をみはからつて、種子をできるだけ均一にまき、覆土はシバハローまたはレーキで薄く行い、そのあとは必ず鎮圧を行います。厚い覆土は失敗のもと。

### 畑地内草地の混播組合せの一例

暖地		北陸、東北	
普通地		普通地	
ルーサン	100%	ルーサン	100%
赤クロバ	100%	赤クロバ	100%
ラデノクロバ	0.5%	ラデノクロバ	0.5%
オーチャード	0.5%	オーチャード	0.5%
トルオートグラス	100%	チモン	100%
ブROOMグラス	1.5%	ブROOMグラス	1.5%
不良地		不良地	
ラデノクロバ	0.5%	ラデノクロバ	0.5%
バズフットトレフォ	100%	アルサイククロバ	0.5%
赤クロバ	100%	赤クロバ	0.5%
オーチャード	0.5%	オーチャード	0.5%
セントッキー三一フェ	100%	ホイトグラス	1.5%
ホイトグラス	1.5%	メドウフェスク	100%

註 ルーサンは酸性でない土壌の場合のみ利用いたします。

### 飼料作物は必ず混播

飼料作物は特別の場合を除いて、混播利用が鉄則です。これは家畜への給与上、増収上、地力増進上、その他あらゆる点から望ましいことです。



そして牧草にかぎらず、飼料作物には夫々適合した混播相手があり、常に好ましい混播組合せで利用するのが上手な作り方ということになります。

## 輪作草地用優良牧草のあらまし

(まめ科)

○ルーサン (アルファルファ)

ルーサンは昔科牧草の王と称され、永年に亘つて収量の多い牧草です。高温、寒冷、旱魃に耐え、再生力強く四〜五回の刈取りができ、蛋白、石灰の含量が非常に多いものです。沢山ある品種の中でデュピット(はやみどり)、ナラガンセット、ウィリアムスブルク、アトランチック、バッファローなどの品種が収量多く、わが国の暖地に適した優良品種です。栽培法については六頁をごらん下さい。

○赤クロバ

栽培しやすく、家畜の好きな赤クロバは、二〜三年性で緑肥効果も大きく、有機質の多い排水良好地に適し、生育の早い牧草です。「ケンランド」は炭疽病に強く多収な暖地向晩性優良品種です。「マンモス」はその名の如く巨大型、極晩性品種。分枝や繁茂は旺盛で病害にも強く、寿命の長いクロバです。

○ラデノクロバ

ラデノクロバは、酪農経営に欠くことの出来ない重要な永年性牧草で、放牧地は勿論採草地にもその果す役割は偉大なものです。白クロバの一品種ですが、遙かに大型、草丈は低いが再生力が強く、その収量、栄養価値は他牧草を断然上しています。但し、早魃には弱く、また肥料分が少く小型化しますから良い生育環境を与えること、必ずいね牧草と混播のこと。

○アルサイククロバ

赤クロバと似た草姿ですが、湿地、酸性地など不良条件にもよく生育します。経済的寿命は二〜三年。冷涼な気候を好み山間地帯では赤クロバ以上の収量をあげ、またレンゲの生育不振の水田でも好評です。「四倍体アルサイククロバ」は葉茎花ともに在来種より大きく、三〜四割増収できます。

○バズフットトレフォイル

野生するミヤコグサと同属の多年性昔科牧草で、暑熱旱魃に



### 三 畑地裏作と多毛作により豊富な青刈飼料を

#### (A) 換金作物と結びついた裏作飼料栽培

甘藷、大豆、陸稻など秋作物の跡に飼料作物の秋冬作を組合わせ、秋、冬または早春に青刈として利用することが、暖地畑作酪農家の常識となってきました。左表の通り裏作できる飼料作物は沢山あり、これらの飼料作物は播種期をかなり前後できますから、秋～春の飼料に不足しませ

ん。例えば、甘藷を早掘りしてデントの晩播栽培を行うとか、大豆を収穫する半月前にレープやイタリアンライグラスを中播きし大豆収穫後それらを冬期の青刈飼料にするとか等、大いにアタマを働かしてほしいと思います。

裏作飼料作物の作付け、作物選定上の着眼  
1 草地や水田裏作から得られる飼料の不足の時期に合うように作付けする。  
2 一般畑作(実取り、蔬菜等)の間混作できる時期を見

畑地裏作用飼料作物の栽培法

時期	作物名	播種量(キ)	播種法	播種期	生育日数	一〇坪当り収量(キ)	施肥(硫酸・過石・硫加)	量(キ)
晩	デントコーン	八〇	五六条×条播	八下～九中	五〇～六〇日	三、〇〇〇～四、〇〇〇	二五	三三
秋	ひまわり	二一三	〇	〇	〇	二、〇〇〇～三、〇〇〇	〇	〇
冬	レープ(〇・〇)	〇・二	育苗移植	五〇×九上～一〇上	一〇〇日より	四、〇〇〇～五、〇〇〇	二〇	二四
冬	レープ(〇・〇)	〇・五	三〇～四〇×条	八〇～一〇〇日	八〇～一〇〇日	〇	〇	〇
冬	下総かぶ	〇	五〇×二五	九〇～一〇〇日	九〇～一〇〇日	五、五〇〇～七、五〇〇	〇	〇
冬	えんばく	四〇五	四〇×五〇×条	九上～一二下	五〇日より	三、〇〇〇～五、〇〇〇	二五	三三
冬	ライムギ	一〇	〇	〇	〇	三、五〇〇～五、五〇〇	〇	〇
冬	ペイラム	四〇五	〇	〇	〇	二、五〇〇～三、五〇〇	一〇	二四
冬	イタリアンライグラス	二一・二五	三〇～五〇×条	〇	六〇日より	三、〇〇〇～六、〇〇〇	二五	三三
冬	クリムソクローバー	一〇	五〇×条	八下～一〇中	一六〇日	三、〇〇〇～五、〇〇〇	一〇	二四
冬	赤クローバー	一〇	五〇×条	八下～一〇中	一八〇日	三、〇〇〇～六、〇〇〇	〇	〇

#### 〇晩秋の青刈り

デントコーンの晩季栽培が主なもので、種子量を従来の約倍量使用した密植栽培が収量多く、南から北までどの地帯でも好成績が得られます。尿、人糞等の追肥で驚異的な収量をあげている例も見られます。(七頁参照)

#### 〇冬の葉根菜

レープ(青刈ナタネ)とケール(かき葉甘藍)は耐寒性強く、カブ、ルタバガ類も冬期飼料として積雪のない限り二月末まで利用できます。いずれも生長点を痛めないように葉だけを刈取り、あるいは逐次間引収穫するなど有効に利用できます。

#### 〇冬～早春の青刈り

燕麦、ライ麦を九月に播種すれば、十一月に第一回目の収穫ができ早春に第二回、第三回の刈取りが可能です。十一月播種では年内の刈取りをせず翌春に利用。ベッチ、イタリアンの混播により収量、栄養価をかなり増収することができます。

3 飼料作物の生育適期、収量、栄養価、肥培法を知る。

### アルファルファ



ルースンはこうして作る

アルファルファ(a)はAです。アルファルファはAで、エースの中のエース、つまりルースンは一番すぐれた牧草であることを表現しています。なぜこのように最高級の讃辞を冠したのでしよう。

ルースンは暑熱、寒冷に耐え、永年に亘って非常に旺盛な生育を続け、しかも蛋白、ビタミン、カルシウム等の含有量が豆科牧草中随一だからです。しかし、ルースンは土壌に対して敏感な作物で、肥沃なよい土地でないとうまく生育しません。

① 酸性地は嫌い、石灰の施用が必要。

② 肥沃で有機質に富んでいなければならぬ。

③ 排水のよい土壌を好む。

④ 整地をよくし、不良雑草を除去すること。

右の四条件にかなうような土地を選定、準備し、次は根瘤菌の接種です。根瘤菌は弊社ではルースンと一緒に送っていますが、その使用法は、

⑤ 寒天培養のものを少量の水に溶かして、混濁液を作り、これを種子に注ぎよく混ぜて、陰干してから播く。または混濁液を砂に注ぎ、砂と種子とを混合してまく。

根瘤菌は日光に当たると弱いから、播種後、覆土を早めに行うことも大切です。但し覆土は厚すぎないように。

刈取りの際には、次に再生してくる二番草、三番草を念頭に置いて、高め(一〇センチ位)に刈取るのが得策です。

⑥ 地際の若芽が七、八センチ達すれば、花をまたずに刈取つてよい。おくれると硬くなる。

⑦ 刈取後に燐酸加里の追肥を行うこと。

